

第48回 歴史散策「明智光秀を訪ねて」ご案内

本年は新型コロナウイルスの影響で、春の歴史散策は中止としました。従って今年の歴史散策は秋の歴史散策1回限りとなります。

今回の歴史散策は、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」にちなんで、明智光秀ゆかりの地を巡ります。明智光秀は、優れた政治能力ならびに戦に強い武勇力に加え、茶の湯や連歌など文化にも精通する、文武両道に秀でた人物でした。

今回の歴史散策は、光秀生誕の美濃・岐阜にはとても行けませんが、本能寺を中心に京都市内や、坂本城址のある滋賀県を散策します。

当歴史散策に参加ご希望の方は当日下午記場所にお集まり下さい。お申込みの必要はありませんが、メール申込み頂いた方には当日雨模様の時中止か否かメール連絡致します。お1人でも、ご家族、友人同伴でも結構です。秋の一日を楽しみましょう。

1. 開催月日 : 2020年10月24日(土)
2. 集合時刻・場所 : 9:30 阪急京都本線烏丸駅 西改札口集合
終了予定: 16:30頃、JR京都駅構内解散
3. アクセス :
 - ① 阪急京都本線 梅田 8:36 発河原町行快速急行 — 烏丸 9:21 着
 - ② JR京都線 大阪 8:30 発近江塩津行新快速 — 京都 8:59 着
—京都市営地下鉄烏丸線国際会館行き 9:15 発—四条 9:18 着
 - ③ 近鉄京都線 西大寺 8:37 発—竹田駅同ホーム乗換—京都市営地下鉄国際会館行き 9:14 発—四条 9:24 着
4. 雨天対応 : 小雨決行。判断困難の場合は下記西田宛問い合わせして下さい。
5. 参加費 : 参加費不要(ただし交通費、昼食代、入館料等すべて自己負担)
6. 持ち物 : 飲み物、雨具、健康保険証など。 弁当は不要、現地食堂利用
7. 連絡先 : 世話役 西田義雄 Tel:080-6117-2444、 Mail:yoshion@kcn.ne.jp
8. 散策コース(予定) : 徒歩約 10km
阪急烏丸駅 → 本能寺址 → 現・本能寺 → 明智光秀首塚 → (昼食)
→ 京都地下鉄東西線・東山駅 → 山科駅・JR湖西線乗換 → 比叡山坂本駅
→ 坂本城址の碑 → 坂本城址公園 → 明智光秀像 → 本丸址の碑 → 明智塚
→ JR比叡山坂本駅 → JR京都駅構内(解散)

◎本能寺址

天正10年(1582)本能寺の変、織田信長は明智光秀の襲撃を受け自刃、本能寺は炎上しました。同じ地にすぐ再建されましたが、豊臣秀吉による京都都市計画の一環で1592年に寺町に移されました。本能寺の跡地には本能小学校がありましたが、近年閉鎖・取り壊しとなり現在福祉施設となっています。



◎現・本能寺

法華宗の大本山。現在七塔頭を持つ大寺院。秀吉により現在の寺町お池に移されました。

境内には、信長三男信孝依願による織田信長公の供養塔があり、その側近たちの供養もさえています。なお本能寺では「能」の字を使用せず別の作成文字を使用しています。火災が多く「ヒ」を嫌いました。



◎明智光秀首塚

東山の白川。そのほとりに明智光秀の首塚がります。信長を本能寺で討った後、山崎の合戦で秀吉に敗れ坂本城へ逃れる途中山科の小栗栖で土民に討たれ自刃しました。粟田口の刑場で晒され、いろんな経緯の後この地に祀られました。祠の中には光秀の木像と位牌が納められており、かつては衣服の切れ端や遺骨などもあったそうです。



◎坂本城址の碑

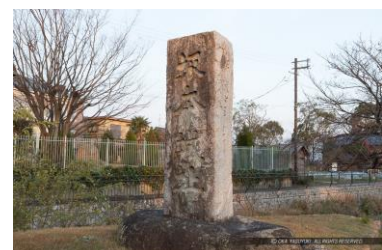
比叡山焼き討ちの後、麓の琵琶湖湖畔に明智光秀が築いた城です。城内に琵琶湖の水を引き入れた水城で、大天守と小天守を持ち、その姿は非常に豪壮であったといえます。山崎の合戦で敗れた光秀の娘婿・明智秀満が光秀の妻や娘、自分の妻子を刺し殺し、城に火を放ち、討ち死にしました。

現在は見るべき遺構がほとんど残っておりません。



◎坂本城址公園

明智光秀の居城・坂本城は秀吉の治世において廃城となり、大津城の部材に使用され、遺構はほとんど残っていません。現在、坂本城跡は公園に整備され、光秀像が設置されています。



*明智光秀像

坂本城址公園には 1995 年に建てられた明智光秀の像が立っています。

傍には、鳥羽一郎が歌う光秀をしのぶ歌碑があり、ボタンを押せば歌が流れてきます。



◎坂本城本丸址

本丸址地は坂本城跡公園の北にあり、晴れていれば琵琶湖対岸の三上山や長命寺山などが一望できます。企業キーエンスの私有地なので普段は入れませんが、土日祝日に限って無料開放しています。



渇水によりびわ湖の水位が下がった際には、本丸石垣が現れることがあります。

◎明智塚

光秀を弔う供養塚。木造の鳥居と2つの石燈籠を有する小さな塚です。塚の由来について、「土岐氏から拝領した宝刀を城の主柱下に埋めた跡である」、「明智光秀秘蔵の愛刀・郷義弘作の脇差など宝物が埋まっている」等の伝承が残っています。

